

投資事業評価調書（継続：再評価）

部課室名	農林水産部農林水産局 治山課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	治山課長 西川 貢 (林道係長 片岡 好章)	内線	4128 (4134)
事業種目	林道整備	事業名	事業区間	総事業費	96億円
		森林基幹道整備事業	千ヶ峰・三国岳線	内用地補償費	0億円
所在地	事業採択年度	着工年度	完成予定年度	進捗率 (内用補進捗率)	16% ( - %)
朝来市生野町大外～多可郡加美町奥荒田	H 8	H 8	H 2 7	残事業費	81億円
事業の目的			事業内容		
播磨中部山岳地帯の林内路網の骨格となる森林基幹道を整備し、林業生産性の向上を図るとともに、水源かん養、山地保全、環境保全など森林の多面的機能の持続的発揮及び山村地域の活性化を図ることを目的とする。			林道整備：延長34,800m[残延長29,643m] 幅員5m 負担割合：(国庫補助事業)国50%,県40%,市町10%		
事業を取り巻く社会経済状況等の変化	戦後の経済成長期に植栽された人工林が伐採時期を迎えつつある中で、木材価格の低迷が続いて林業生産活動が停滞し、担い手である林業従事者も減少している。また、林業採算性の悪化に伴って間伐等の森林整備が進まず、森林が有する多面的機能の低下が危惧されている。				
進捗状況	当路線は、H8年度に事業に着手しているが、限度工期を超えた路線に予算を重点的に配分していることから、当路線に必要な予算措置を講じることが出来ないため、H17年度末の完成見込み延長は、全体延長の15%（約5.1km）にとどまっている。 今後は、より地形に沿った線形を採用するなど事業コストの縮減を一層進めるとともに、予算重点配分路線の完了後には当路線に予算を重点的に配分し、当初の予定どおりH27年度に事業を完了させる予定である。				
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性	木材価格の低迷や林業従事者の減少などの社会的要因の変化により、播磨中部の山岳地帯においても放置森林が増加し、森林の多面的機能が低下が危惧されている。さらに、昨年台風23号を始めとする記録的な県下の風水害では、人工林を中心に多くの風倒木被害が発生した。 このような中で、森林の多面的機能を永続的に確保し、災害にも強い森林を守り育てるには、枝打ちや間伐などの森林整備を促進し、伐採・植栽・保育の林業生産サイクルを円滑にして健全な森林を育成していく必要がある。 そのためには、基盤となる林道を整備し、高性能林業機械を導入して林業生産性の向上を図り、林業就業者の労働環境の改善を図ることが不可欠である。また、林道を活用することで風倒木被害など山地災害にも速やかに対応できるため、引き続き本林道を整備する必要がある。				
(2)有効性・効率性	当路線の費用便益費B/Cは1.91であり事業効果が期待できる。また、地元からの早期開通の要望が強く、地元の協力体制も整っている。				
(3)環境適合性	地形に沿った線形を採用するなど土工量の縮減を図り、地形の改変を最小限に抑えているほか、県産木材の利用促進も図っている。 また、当路線を活用して利用区域内の森林整備を進めることにより、森林の有する多面的機能の永続的な発揮を図ることができる。				
(4)優先性	播磨中部山岳地帯において、緊急かつ重要な課題となっている森林整備を促進し、高性能林業機械を導入して林業生産性を向上させるためには、林内路網の骨格となる林道として当路線を優先して実施する必要がある。				
再評価の結果	継続妥当	左の理由	林業生産性の向上を図り、森林整備を促進して森林の多面的機能を確保するため、本林道を引き続き整備する必要がある。		